

事業概要 都内広域エリアの魅力満喫に向けた回遊促進情報発信サービスの実装

- ① **周辺エリアの都市OSとの連携実装**によるイベント情報等の連携
- ② エリアをまたがるサービス事業者(モビリティ事業者等)の**外部基盤との連携実装**による移動情報の連携
- ③ エリア間の回遊性向上を促す**サービスタッチポイントのUI・UX検討および実装**

事業計画

本地区の来街者属性は、首都圏の通勤者や近接地区の住民(日常的)を中心としつつ、国内外からの観光客やイベント/集会等への参加者(非日常的)にて構成される。他地区からの流入で構成される本地区で人々の移動を検討する際に、地区内の回遊だけに着目するのではなく、**周辺地区と連携した就業者・来街者の回遊施策の実装が効果的**である。

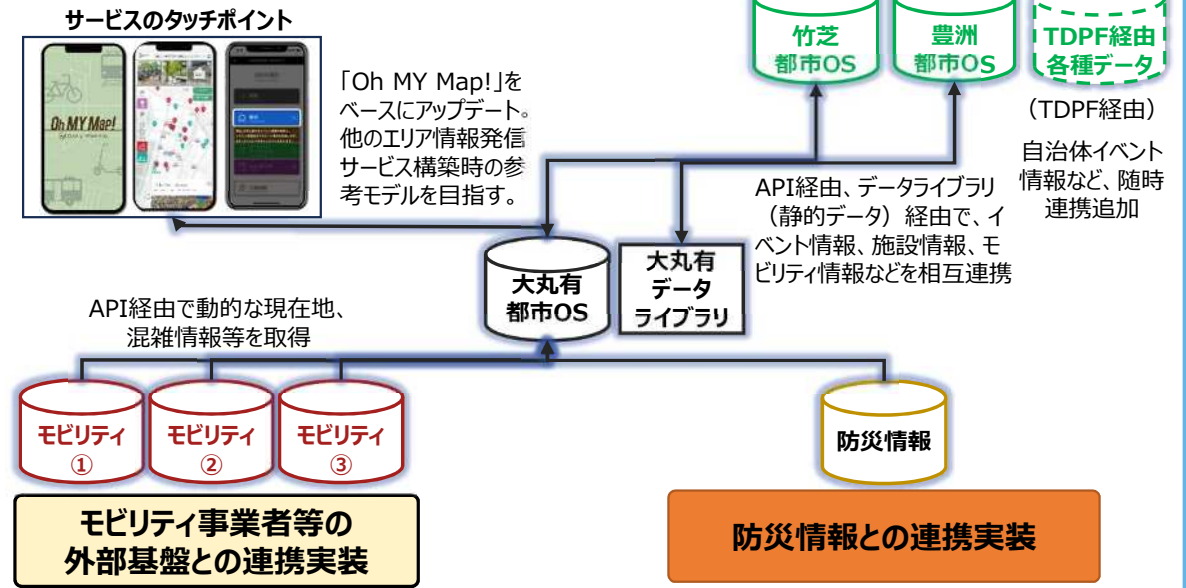
近接地区の神田、日本橋・八重洲・京橋、竹芝と連絡する**モビリティ情報の連携**、回遊先として、竹芝、豊洲エリアの都市OSから**イベント情報の連携**等を実施し、**都内広域で魅力を満喫できる回遊促進のための新しいサービスを提供**する。



事業内容

エリア間の回遊性向上を促すUI・UXの検討および実装

- <検討案>
- ・地図エリア(現在地)によって、優先表示するイベント情報が可変
 - ・各エリアへのリンクボタンを表示し、選択したエリアの地図に移動
 - ・テーマ別のメニューを表示し、テーマに応じた情報を広域で提供



事業概要

「課題解決＋未来志向型スマートシティ」「ミクストユース型スマートシティ」のコンセプトのもと、【職・住・遊の全ステークホルダーのQOL向上】【地域連携・地域参画による先進的まちづくり・エリアマネジメント】という目標実現に向けて、豊洲都市OS及び他エリアの都市OSのデータを活用したスマートサービス（観光・モビリティ・イート・ヘルスケア・防災など）を実装する。

事業計画

本事業では①回遊性の不足、②情報発信の不足、③地域内・地域間連携の不足を課題と位置づけ、それぞれの方針及び施策を設定。

取り組み年度	2023年度	2024年度
要旨	<ul style="list-style-type: none"> 豊洲エリア内でターゲットニーズに合致したイベント情報を配信することで豊洲への来訪を促す 回遊モチベーションを上げるコンテンツ・体験を提供することで豊洲エリア内での回遊を促す タッチポイントを改修して情報発信力を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> 豊洲エリア内のチャンネル・コンテンツを拡大して、取り組みの効果を高めていく 取り組みを他エリアに拡大し、今までリーチ出来ていなかったターゲット層の来訪、アクセスを促す サービスメニューを拡大・実装、幅広い層に提供する
対象エリア	<ul style="list-style-type: none"> 豊洲、臨海エリア 	<ul style="list-style-type: none"> 豊洲、大丸有、臨海エリア
対応方針① 回遊性向上につながるコンテンツ・体験の提供	<div style="text-align: center;"> 1 豊洲スマートパスの提供 </div>	
対応方針② ターゲットニーズに合致した情報配信、情報発信体制の整備	<div style="text-align: center;"> 2 XRジオラマビジョンの活用 </div>	
対応方針③ 観光・生活の満足度向上につながるサービス提供	<div style="text-align: center;"> 3 エリア人流解析マーケティング/ターゲティング配信 </div>	
	<div style="text-align: center;"> 4 オウンドチャンネルでの情報発信・サービス連携 </div>	

事業内容



①豊洲スマートパスの提供

- 各種サービスと移動手段を一体化した電子チケットを発行



②XRジオラマビジョンの活用

- XR上に作成した豊洲ジオラマによる観光案内



③エリア人流解析マーケティング/ターゲティング配信

- 人流分析を行うとともに、ターゲット別に配信した集客施策効果の検証



④オウンドチャンネルでの情報発信・サービス連携

- LINE・サイネージ・ポータルサイトによる情報発信



事業概要

「日本の成長を牽引する国際交流拠点・品川」の実現に向けて、「非常時～平時までをシームレスにつなぐ基盤上で、鉄道データ(混雑、障害)と都市混雑データを活用したエキマチ一体での人流マネジメントサービス」実装をすることにより、「帰宅困難者のスムーズな避難誘導による混乱防止」と「滞在需要創出による都市混雑緩和」をはかり、「都民のQOL向上」を目指す。

事業計画

将来の高輪エリア・港南エリア間の連携を見据え、本事業ではエキマチ一体のまちづくりに寄与する情報伝達・人流誘導を実現する。



- 「未来の東京」戦略 version up 2023
- デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民の質の高い生活を実現
- スマート東京実施戦略
- 公共施設や都民サービスのデジタルシフト(街のDX)
- スムーズ・ピズ
- テレワークや時差Biz、オフピーク通勤の促進による鉄道の混雑緩和
- データ連携・活用促進プロジェクトの目的
- 将来的なプラットフォーム間連携につながる新たなサービスを創出
 - スマートシティ推進のためのプラットフォーム間連携を図る(タイプ1)

本エリアの背景

- 高輪ゲートウェイ駅開業(2020年3月)
- TAKANAWA GATEWAY CITYのまちづくり(2025年3月～)
- 品川駅周辺でも開発が進み、国際交流拠点として商業・業務機能が更に集積、人の流れや移動ニーズが大きく変化する

エリアが抱える課題 (=東京の主要ターミナル駅の共通課題)

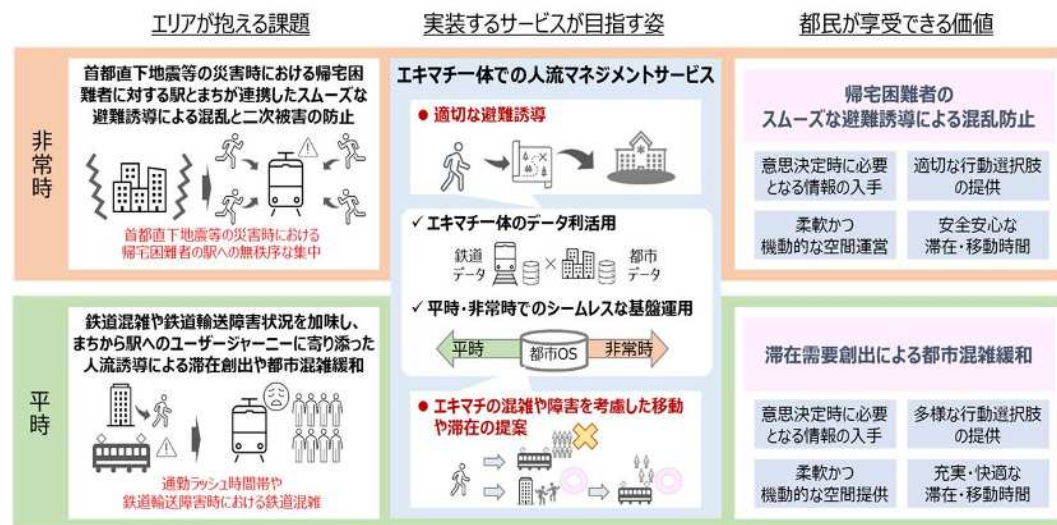
- 駅と街をつなぐ～エキマチ一体のまちづくり～
 - 首都直下地震等の災害時における帰宅困難者に対する駅とまちが連携したスムーズな避難誘導による混乱と二次被害の防止
 - 鉄道混雑や鉄道輸送障害状況を加味し、まちから駅へのユーザージャーニーに寄り添った人流誘導による滞在需要創出や都市混雑緩和
- 分断されていた東西(高輪・港南)をつなぐ(鉄道用地分断の解消)

本事業で実装するサービス

- | | |
|---------------|--|
| 本事業 (FY23-24) | エキマチ一体での人流マネジメントサービスの実現
① 平時・非常時がシームレスに切り替わる基盤の構築
② 都市混雑緩和に対するエキマチ一体での取り組み |
| 将来 (FY25～) | 高輪・港南エリア間のまちづくりで分断が解消され、連携強化に寄与する情報伝達・人流誘導 |

事業内容

非常時・平時における高輪・港南エリアの課題に対し、都市OSおよび人流マネジメントサービスによる解決を実証する。また、これらは、本事業後における高輪・港南エリアの連携を見越した検討を実施していく。



渋谷駅周辺地区（渋谷区）

別紙

事業概要 空間データ一元化による、空間活用の促進と多様な主体を巻き込んだ協業型まちづくりの実現

- ① 渋谷駅周辺地区の官民保有の都市空間情報を一元化し、各種空間について確認・検索できる情報サービスの提供
- ② 各空間の使われ方について情報を集約し、都市空間の利活用実績を閲覧できるサービスの提供
- ③ 区管理予定の都市空間について、利用申請から報告まで行えるオンラインサービスの提供

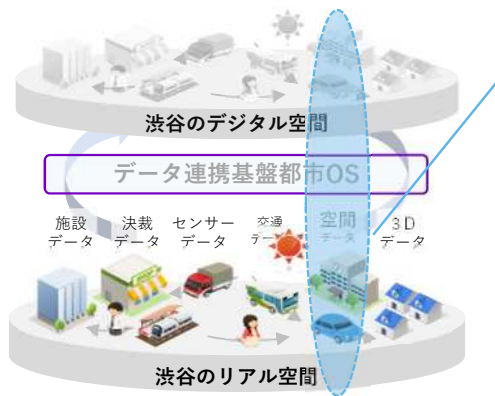
事業計画

都市運営DXを活用した

新たな価値創造及び文化・ビジネス発展の土台醸成を目指す

データ連携基盤（都市OS）にあらゆるデータを収集し、掛け合わせることで新たな価値の創造、well-beingが満たされる渋谷のデザインを目指す

データ連携基盤の構築による取組の一つとして、都市空間データを収集・可視化し、空間利用者や管理・運営者向けのサービスを展開することで、産官学民で連携した更なる空間利活用の促進を行い、協働型まちづくりを促進する。



将来的には、都市に関わる多様なデータも重畳し、あらゆる人が活動やビジネスのチャンスにデータを活かせる成熟した国際都市を目指す。

事業内容

データ連携基盤の整備とサービス開発により、協働型のまちづくりの推進と空間活用の高度化・効率化を実現～誰もが空間情報にアクセスできるようになることで、まちの賑わいや新たな交流が創出される～

エリアの課題

渋谷駅周辺では再開発などに伴い、人々が交流・連携・挑戦する舞台となる空間の拡充が進んでいるが、それらの空間についての所在地や規模、所有・管理者等の情報は一元管理されておらず、空間を活用したい利用者や、管理・運用者の双方において、データを用いた空間活用検討が進んでいない。

都市空間データや
利用実績データの
ブラックボックス化

解決策（事業概要）

渋谷駅周辺の都市空間データを収集し、多様な主体が利用可能なサービスの創出を実現するために、データ連携基盤を整備し、都市運営のデジタルトランスフォーメーションを加速させる。

サービス	主な機能
1 都市空間(広場)情報の見える化	都市空間の一覧・マップ表示 都市空間の検索
2 都市空間利活用実績アーカイブ	各空間の詳細情報の表示 都市空間利用実績の登録 利用実績アーカイブ表示
3 区管理空間のオンライン申請	区管理予定地の利用申請・報告

期待される効果

空間活用しやすい仕組みが構築され、文化やビジネス等の多様な取組が育まれる環境が創出される。

空間利用者 地域団体・スタートアップ・企業・研究機関等

利活用可能な空間情報について、誰もが簡単にアクセスできるようになり、まちづくりに参画し易くなる。
空間の利用実績が閲覧でき、新たな取組の企画提案につなげられる。

空間管理・運用者 行政・エリマネ・開発事業者等

計画の効果検証や、今後の都市空間のあり方検討につなげられる、産官学民連携での協働型まちづくりを推進できる。空間利用申請・許可業務の効率化をできる

事業概要

「医療資源の見える化と共有」により、災害・感染爆発時における都民への医療提供の迅速化を目指します

府中市に所在する多摩総合医療センターを中心としたエリアにおいて、災害時などの各医療機関の医療資源を被災状況を含めて見える化・共有し、救命等が必要な都民の受入れ、および医療提供の迅速化を目指します

事業計画

課題認識

現時点では、災害時に各医療機関の被災状況や実働可能な医療資源を一元的に把握することが困難であり、被災した都民を適切な医療機関に案内・誘導し、迅速な救命等の医療提供に結びつける仕組みが確立されていません
 その一因は、医療機関の医療資源の把握には建物の「施設・設備データ」を取得することが必要であるものの、現時点ではそれらの情報を人手を介さずリアルタイムで取得し、見える化・共有する手法およびサービスが確立されていないことであります

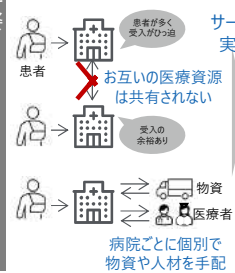
サービス内容

主要な医療資源を施設・設備データからリアルタイムに自動取得し、災害時などに各医療機関の被災状況や実働可能な医療資源を把握できるサービスを開発・実装することを目指します

上記のサービス実装により、災害および感染爆発時における各医療機関の医療資源を被災状況を含めて見える化・共有し、救命等が必要な都民の受入れや医療提供の迅速化を目指します

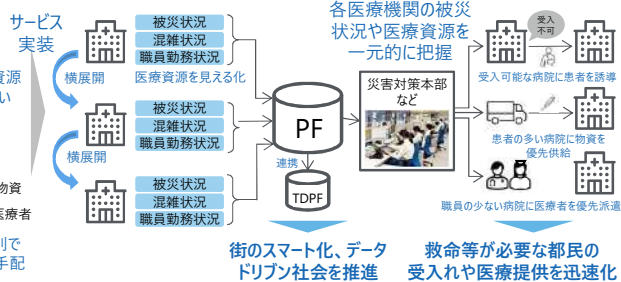
現状（イメージ）

現状では、個々の医療機関にて個別に医療提供を行っている



将来的に目指す姿（イメージ）

本サービスの実装により、医療機関の被災状況や医療資源を見える化する
 各医療機関の状況を一元把握し、最適な患者誘導や物資・人材供給を実施 ▶ 都民への医療提供を迅速化



将来的に目指す姿

事業内容

災害・感染爆発時に都民への医療提供を迅速化するため、災害・感染爆発時の医療継続に必要な医療資源を「リアルタイムに自動取得」し、「ダッシュボード化」により見える化します

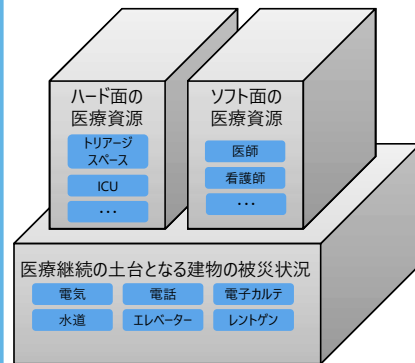
医療資源をリアルタイムに自動取得

刻一刻と状況が変化する災害・感染爆発時において、タイムリーな対応を行えるよう、医療継続に必要な医療資源をリアルタイムに自動取得するサービスの開発・導入を目指します

ダッシュボード化による見える化

将来的に複数医療機関の医療資源を一元的に把握できるよう、自動取得したデータをダッシュボード化して見える化します

災害・感染爆発時の医療継続に必要な医療資源（イメージ）



自動取得する情報

- 1 被災状況
- 2 混雑状況
- 3 職員勤務状況

医療資源のダッシュボード化（イメージ）

	A病院	B病院
被災状況	電気 ×	水道 ○
	エレベーター ×	エレベーター ○

来院患者数	100人	20人
混雑状況	赤色ゾーン 5人	黄色ゾーン 0人
	黄色ゾーン 10人	緑色ゾーン 20人
	緑色ゾーン 20人	...
職員勤務状況	内科 10人	10人
	外科 20人	20人
	小児科 5人	0人
	産科 3人	0人
	看護師 100人	100人

活用イメージ

A病院は被災しているが患者が多く混雑している一方、B病院は被災しておらず、患者数も多くない

A病院もB病院も職員数は同規模が勤務

ダッシュボードを見て、A病院から被災していないB病院に患者を誘導

救命等が必要な都民の受入れや医療提供を迅速化